

わ

が

街

わ

が

故

郷

## 日本トムソン株式会社 和紙とうだつのあがる町

日本トムソン株式会社の主力工場である岐阜製作所と美濃市についてご紹介いたします。

### 《会社の紹介》

〒 501-3763 岐阜県美濃市極楽寺916番地

TEL 0575-33-3111

日本トムソン株式会社岐阜製作所

### 会社のあゆみ

当社は、昭和25年（1950年）2月10日に、ベアリング・機械部品の販売会社として、名古屋市に「大一工業株式会社」という名称で設立され、昭和38年（1963年）に本社を東京に移転し、社名を現在の「日本トムソン株式会社」に変更しました。主要製品は、ニードルベアリングと直動案内機器（直動シリーズとメカトロシリーズ）の2つに大別されますが、ニードルベアリングにつきましては、昭和34年（1959年）に姫路工場で生産を開始しました。昭和44年（1969年）には、美濃市に岐阜製作所を開設し、ニードルベアリングの量産化を進めてきました。直動案内機器につきましては、昭和53年（1978年）に直動案内機器リニアウェイを発表し、昭和55年（1980年）に美濃市に量産工場を竣工し、直動案内機器の量産を開始しました。昭和57年（1982年）には精密位置決めテーブル（メカトロシリーズ）の生産にも着手し、美濃市を中心

とした岐阜製作所は、当社の主力工場として現在に至っております。

### 《美濃市の紹介》

#### 1. 美濃町の歴史

黒い瓦ぶきの屋根、木造の格子戸、昔ながらの伝統的な家屋が並び、今も美濃市内には江戸時代の情緒漂う町並みが残っています。また町の西側を、清流長良川が緩やかに流れ、鮎釣りシーズンには多くの釣り人で賑わいます。

町がつくられたのは江戸時代の初期であり、慶長5年（1600年）関ヶ原合戦の功により徳川家康からこの地を拝領した金森長近が「難攻不落の堅城」といわれた鈍尾山城（なたおさんじょう）を廃し、長良川岸の小山を小倉山と改め、ここに小倉山城を築き、現在も残る町づくりをしました。

当初、美濃の町は「上有知」（こうずち）と呼ばれていました。金森長近は経済の発展をめざし、長良川に「上有知湊」を開きます。この画期的な川湊は船運による物資集散の拠点として機能し、美濃の町は商業都市として繁栄しました。

明治44年（1911年）、上有知町は美濃紙にちなんで「美濃町」と改名され、現在の美濃市に至っています。

## 2. うだつのあがる町並み

美濃市の町は、丘の上につくられたため、水害や地震に強い反面、水利に乏しく一度火災が発生すると大惨事となりました。火事の多かった江戸時代、屋根の両端に防火壁を設け、隣家からの類焼を防ぐ工夫がとられました。この防火壁が「うだつ」です。

「うだつがあがらない」とは昔からよく使われている言葉ですが、いっばしの店を構えなければ、「うだつをあげる(つくる)」ことが難しかったということが言葉の由来とされています。かつては日本各地で見られたうだつもその数が減り、現在最も多く残っているのが美濃市です。

市内の常磐町、相生町、魚屋町、本住町、泉町の一帯で、「うだつのある家」が数多く見られ、国の重要文化財として指定されている家もあります。またこの町並みは、「国選定美濃市美濃町重要伝統的建造物群保存地区」とされています。

### 旧今井家(西)

もっとも古い「うだつ軒飾り」の形式を残しています。まず、鬼瓦が小さく破風瓦(はふがわら)注1の下に懸魚(げぎょ)注2がみられません。しかしそれ以上に大きな特徴は、破風瓦が左右それぞれに二枚ずつで構成されている点です。

注1・・・《破風・はふ》

日本建築で、屋根の切妻についている合掌形の装飾板。

注2・・・《懸魚・げぎょ》

破風の下、またその左右に付ける装飾。



旧今井家住宅

### 松久家

今井家の西側「うだつ」より少し発達した形式の軒飾りです。鬼瓦は屋号をあらわして少し立派になり破風瓦が二枚で構成されて反りがあり、人という字の形です。この破風瓦の下に簡素な懸魚をつけています。



松久家住宅

### 小坂家(国重文指定)

鬼瓦を持たない「うだつ軒飾り」は、この小坂家だけで、大きな特徴となっています。とりぶすま、二枚の破風瓦、簡素な懸魚で構成されています。この家の屋根には美しいむくりがありますが、これは上方風の伝統を生かしたものです。



小坂家住宅

### 3. 千三百年の伝統に生きる美濃和紙

「水が命」と言われる和紙づくり。清流長良川と板取川で育まれる美濃和紙は、正倉院に保存されている資料に使われるほど良質です。繊細でいて強靱、歴史的な存在感あふれる風合い、作り手の息吹を感じるあたたかさ。一枚一枚を丹念に作り上げるからこそ生まれる味わい深い世界を垣間見させてくれます。

この地方に、紙づくりの技術が伝わったのは、平安時代から鎌倉初期だとされています。江戸時代になると半紙、障子紙等、各種の紙が漉かれ、丈夫なうえ、質の良さでも定評があり、全国的に名を馳せました。「流しすき」の製紙法で漉かれた紙を本美濃紙といい無形文化財として国の指定を受けています。

千数百年の歴史をたどる過程で、芸術品としての価値を高めてきました。一方で、現代生活の中で多彩な形態をとって生まれ変わる和紙。芸術的側面と実用品的な側面が再び見直され、新しい和紙文化がつくり出されようとしています。古くて新しいものとして、美濃和紙の可能性は無限に広がっていくものと思われます。



本美濃紙



美濃和紙で作られた人形

### 美濃和紙あかりアート展

全国からプロ・アマを問わず美濃和紙を素材とした光のオブジェを集めたアート展が、美濃市のうだつの町並みを舞台に開催されます。

通りに並べられた作品が「うだつの町」をわかりやすく照らす光景は幻想的です。

平成14年の第6回ふるさとイベント大賞で大賞、総務大臣表彰を受賞しております。今年も平成16年9月10日に、第11回美濃和紙あかりアート展として開催されます。



美濃和紙あかりアート展

### 4. まつり

#### まつりカレンダー

3月下旬～5月5日 さくらまつり

4月第2土曜日と翌日の日曜日 美濃まつり

第2土曜日 花みこし市内乱舞、流し仁輪加

第2土曜日の翌日 山車、練物市内巡行、

流し仁輪加、大矢田ひ

んこ祭り

10月上旬～11月30日 もみじ祭り

11月23日 大矢田ひんこ祭り

#### 美濃まつり

4月の「美濃まつり」では、桜色の美濃和紙で飾られた花みこしが列をなして町へ繰り出し、まるで満開の桜の木のように美しく市内を乱舞します。その数は大小あわせて30余基にもものぼり、町の人や観光客の目を楽ませています。この花みこしは美濃八幡神社の春を呼ぶ、華麗

な神事とされています。若い衆が潔くかつぐ姿もまた勇壮です。



花みこし

夜になると、通りでは「仁輪加」とよばれる即興劇が行われます。「仁輪加」の特徴は、風刺と滑稽と洒落で、その面白い話術と動作で見る人を笑わせます。最近の社会事象を取り上げ独特な美濃町弁で演じられる様子が、地元民のみならず多くの観光客の興味をひきつけるものとなっております。市内を流しながら演じることで、「流し仁輪加」といわれています（国指定選択無形民俗文化財）。



仁輪加

## ひんこ祭り

春と秋、年二回行われるのが「ひんこ祭り」で、天下の奇祭といわれるこの大矢田神社の祭りには、数々の人形が登場します。須佐之男命を形どった張り子人形が、大蛇退治の伝説を演じます（大矢田ヒンココ 国指定選択無形民俗文化財）。



ひんこ祭り

（日本トムソン(株) 岐阜製作所 服部 信一）